

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・ 事業所 の特徴	H18年12月開設。同センター内にサテライト特養、ショートステイ、訪問介護ステーション併設。こぶし園初の小規模として地域啓発等を行っています。住み慣れた地域でその人らしい生活が維持できるように柔軟なサービスを提供し、暮らしを支えていけるように取り組んでいます。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 美沢	管理者	佐藤佳代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	1人	1人	1人	3人	3人	0人	14人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日勤者が出勤後、出勤者全員で申し送りをを行い、ノートに記載内容や利用者の様子など確認していく。また、業務前に、日誌・ノート確認し各自でも情報収集しサインする（ノートに氏名サイン欄を設ける）。当日の送迎表の特記欄に特変あった利用者の氏名を記載し、各自ケースの確認を行い情報を共有する。</li> <li>●ミーティング用のノートを作成し、議題などあればその都度記載し、それを基にミーティングにて話し合いを行い改善していく。</li> <li>●ミーティングやモニタリング時、サービス内容や訪問時の援助内容・訪問時間など適正か話し合い・評価していく。またミーティング後期間を決めて再評価を行い、その結果もミーティングノートに記載して、より良いケアに繋げいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日勤出勤後、申し送りの時間を設け、以前より詳細な情報共有は図っている。</li> <li>●ミーティング用のノート作成し、可活用しているもミーティングの時間も短く、課題全てをしっかりと話し合い出来ていない。</li> <li>●ミーティングを使い、サービス内容について話し合いを持っている。その結果少しずつニーズに合わせた対応ができるようになってきたのではないかと。ただ、依然として家族の意見中心の援助内容になりがちな面や現場の声が反映されてない現状もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●同じ目線で改善計画や外部評価そのものに取り組んでいないし、センター全体を巻き込めていないようにも感じる。どう取り組めば同じ目線で取り組めるようになるのか課題ではないか。</li> <li>●改善計画は立てるだけでなく、なぜそれを立てるのか、その先に何があるかをしっかりと見極める視点も必要。現在は、点でしか物事を見ていない。改善計画を立てる際は、全てが繋がっているという考え方が必要なのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「同じ目線」で現状取り組んでいない為、なぜ外部評価に取り組んでいるのか、取り組む必要があるのか、誰の、何のための改善計画なのかをしっかりと理解するためにも、定期的な学習会を開催していく。また、その際進捗状況などを詳細に伝え、意識の向上を目指す。</li> <li>●事業所の課題を具体的にし、目標設定を明確（視える化）にしていく。</li> <li>●ミーティング時に、共に目標に向かっての取り組み方や意味について随時説明し、同じ方向に向かって進めるようにしていく。</li> </ul>
B. 事業所の しつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>●駐車位置や玄関等の配置や整理方法、飾りなどそれぞれの部署で担当をつけ、センター全体で話し合いを持ち過ぎしやすい環境作りを行う。</li> <li>●計画的にセンター前や裏手の土手に花を植えたり花壇を設置するなどして、センター全体で環境美化に取り組む。また、地域のクリーン作戦時に、地域とスタッフ、ご利用者と共に環境美化を行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●駐車場には白線を引き直した。</li> <li>●春秋の2回、地域のクリーン作戦に参加、センター裏手の土手に花を植える等の活動を地域住民と一緒にやっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●以前より玄関が整理されていて、入りやすくなった印象。</li> <li>●センター裏手の土手の歩道は散歩する人などいて人通りある為、裏手にもフリーカフェ等の看板を設置し、アピールしてはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●季節を感じられる飾りつけを行い、入りやすい空間を演出していく。</li> <li>●センター駐車場の花壇や特養ウッドデッキの活用方法は改善の余地あり。センター全体を巻き込めるよう意見交換の場を設け、有効的な活用方法を模索していく。土手側にフリーカフェ等の看板設置にてセンターのアピールにも取り組む。</li> </ul>

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●近隣地域に広報活動を継続し、センターの周知の輪を広げていく。</li> <li>●広報（美沢だより）を回覧板で地域に回したり、コミセン等に掲示してもらい、地域の方にセンターの様子や取り組みを知ってもらう （広報の内容は工夫の必要あり。地域の相談窓口であることや“まちなね（地域での介護教室）”の取り組みについて記載、分かり易い地図の作成など）。また、文化祭などでコミセン祭りで展示された作品や地域の方の作品を展示させて頂けるように働きかけていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今年度より広報に「まちなね」の活動報告を取り入れ、回覧板にて地域に回している。</li> <li>●文化祭の作品展示募集の働きかけなど十分にできず、地域の方からの作品は無かった。広報の方法など課題が残った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●知らない人から見たら、「サポートセンター」と言われても、どういうところか分からない。実際に何を行っているか、なかなか伝わっていないと感じる為、誰が何をやっているか分かる事業所をどう作っていくかが、課題ではないか。</li> <li>●地域によっては回覧板などに広報や行事案内を載せると事業所の営業のように捉えられ難しい面も。地域に学校にアプローチしていくことも有効ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●広報の内容は改善の余地あり。担当職員だけでなく、センター全体を巻き込み、アイデアを募るなどし、分かりやすい広報を目指していく。</li> <li>●行事やまちなねなど継続した取り組みを行っていく。また、ポスター等を近隣の商店やコミセンへ貼って頂けるよう再度開拓していく。</li> <li>●“いつ来てもよい”は逆に訪れにくい。まちなねなど行事にぶつけるなど日程を工夫し、また来たいを思ってもらえるような目玉を作っていく。</li> </ul>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●町内会や民生委員の集まる会議に参加する機会が持てるように働きかけ、このセンターも地域を支えていく一員であることを認識してもらう。</li> <li>●地域への外出の機会を積極的に計画・実施し、地域との関わりを作っていく（ご利用者が生活している地域の行事を再度確認する）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期的に運営推進会議を開催し、その中で地域の方（町内会長、民生委員、周辺の福祉事業所、交番等）と意見交換をしている。</li> <li>●可能な限り地域のコミセンなどで開催されている行事に参加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「ちょっと相談に乗って」と近隣から言われるだけでも開かれた事業所ではないか。相談されたら、相談された人が全てを解決しなくても、どこに繋いでいけばより良い解決へ導いていけるかを考えていく必要あり。</li> <li>●包括とは違う役割がある。少し困っている人がいるなどの話が聞かれるだけでも大切。それ故に相談窓口である事の周知が課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域への外出を積極的に計画していく（近隣地域で行われている行事だけでなく、利用者の方が実際行きつけだった店や喫茶店などへの外出も含め計画・実施し、地域へ出向いていく）。</li> <li>●近隣の人と顔の見える関係作りを大切にしていきたいので、訪問や送迎時に挨拶などしていく。</li> </ul>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●異動等で運営推進会議がどのようなものを理解していないスタッフもいるため、様々なスタッフが参加できるようにし、この会議で何を活かしているのかを考える機会とする。</li> <li>●どのような方法で、組織からニーズを求めるかをしっかり把握し、そのうえで地域のニーズをしっかりと分析し、必要なニーズを地域と共に寄り添い、支援できるのか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●運営推進会議に参加している職員からの報告書は見ると、背景・会議の様子がなかなか見えて来ず、内容をなかなか把握できていないこともある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●会議を通して、具体的な事例を話す機会なかったが、プライベートもあり個別の事例を検討することは難しい面もあるのではないかな。</li> <li>●テーマを決めて話し合う事も有意義だと思うし、効率的に話し合う工夫も必要ではないかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●運営推進会議の意味・必要性をスタッフが知ることも必要。その為にも様々なスタッフが参加できる機会を作る。</li> <li>●地域における課題（認知症対策等）をしっかりとテーマを決めて）を取り上げ、共有していく。</li> </ul>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●センターのパンフレットに一時的に避難できる場所であるということに記載する。また、地域の方へ回覧する文章や広報（美沢だよりなど）にその文章を盛り込み、地域において周知できるようにする。</li> <li>●地域住民との防災訓練を共に企画し、協力し合える関係作りが出来るようにする（地域住民に福祉避難所としての役割をセンターが担っていることをその都度伝えていく）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●福祉避難所としての役割等を向上に記載し周知する、と言うところまでは至らなかった。</li> <li>●センター内で防災訓練は行っているも、地域の方には参加して頂けていないのが現状。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●周辺に高齢者や障がい者が避難できるような大きな避難所ない為福祉避難所としての役割はとても大切。それ故に更なる周知に向け工夫が必要。</li> <li>●前回の改善計画の「共に企画」部分未達成。どうやったら地域の人を巻き込んでいけるかが、大きな課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業所が福祉避難所としての役割がある事や、災害時に地域に対し出来ることを具体的に提示し、広報に毎回記載していく。</li> <li>●過去には実際に町内会長等がセンターの防災訓練に参加されていたので、災害別で計画し、より多くの地域住民の参加を募り、それぞれの役割について共有していく（最初は近所の方1名からでも参加してもらい実績を積み重ねていく）。</li> </ul>